

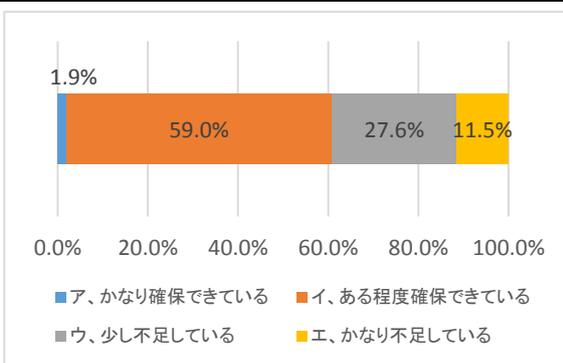
# 市立小中学校教員の仕事に関する「やりがい」や「多忙感」等に関する調査

- アンケート実施時期 平成29年7月
- 対象者・人数 教員等156人

Q1:校種	Q2:年代	Q3:役職	Q4:経験年数
-------	-------	-------	---------

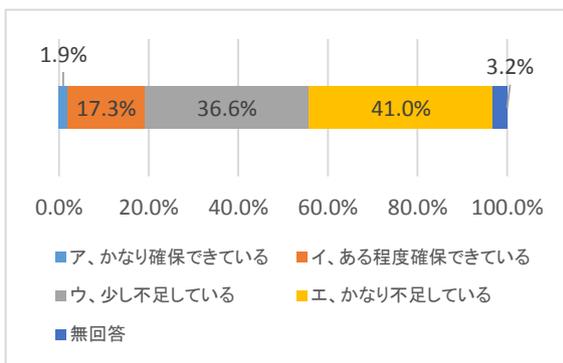
## Q5:児童・生徒に向き合う時間を確保できていますか

6割を超える職員が向き合う時間の確保ができていないと回答している。休み時間、昼休み、また中学校では部活動などを通して休憩時間も返上して対応している教員の姿が見える。それを十分とらえていない職員もいるので、まずは決められた休憩時間の確保からの観点も必要である。



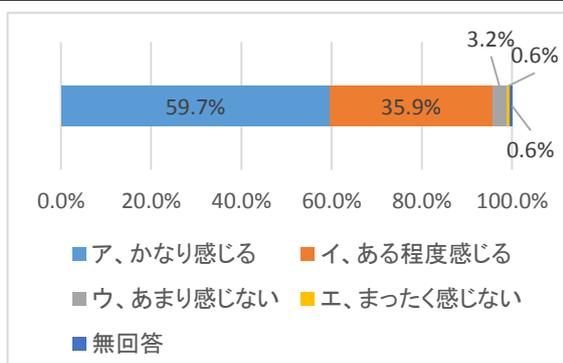
## Q6:授業準備や教材研究等の時間を確保できていますか

8割近くの職員が不足を感じ、その中でも半数以上が「かなり」の不足を感じている。下校後の時間に限られている授業準備・教材研究の時間が他の業務により減少しているところに起因している。本来の業務の時間確保の上でも、その削減・精選に早急な対応が迫られている。



## Q7:現在の仕事が多忙だと感じますか

予想されたが9割以上の職員が多忙感を感じている。多忙と多忙感には、意識的な相違があると思う。教育公務員として児童生徒のために多忙な日々を送るのは当然であるが、様々な業務によりそれが多忙感となっている現状に課題がある。

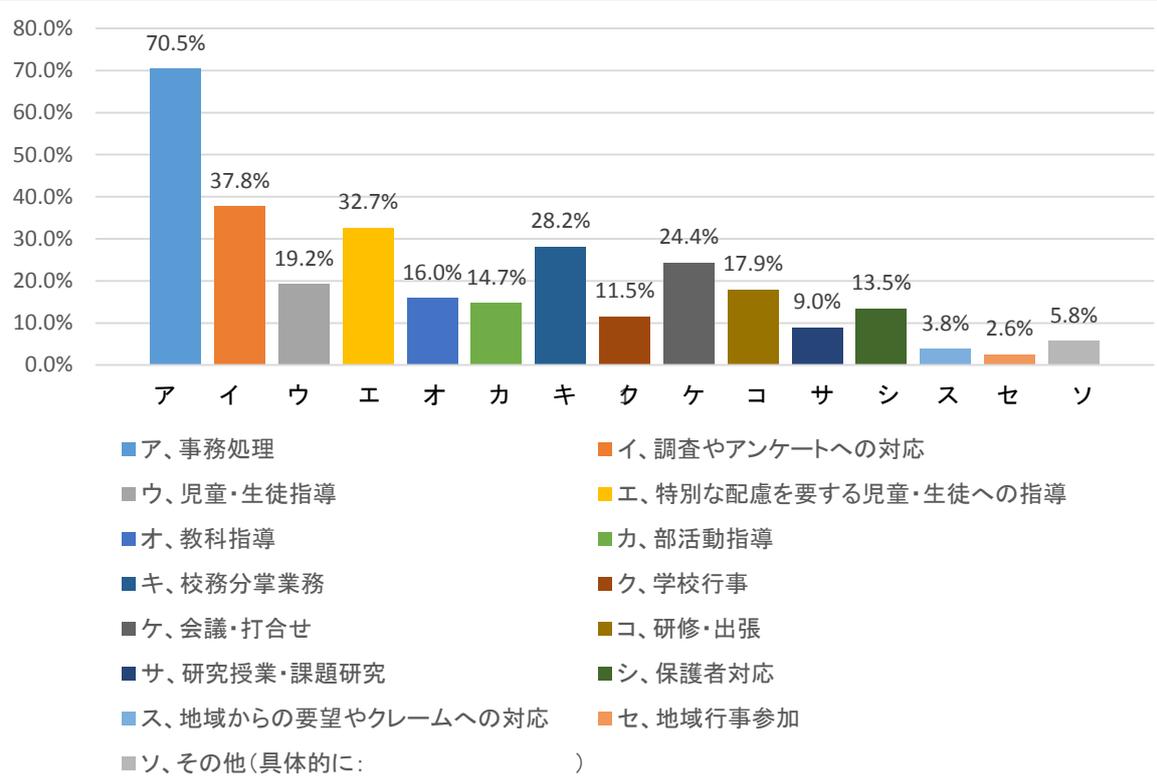


# 市立小中学校教員の仕事に関する「やりがい」や「多忙感」等に関する調査

- アンケート実施時期 平成29年7月
- 対象者・人数 教員等156人

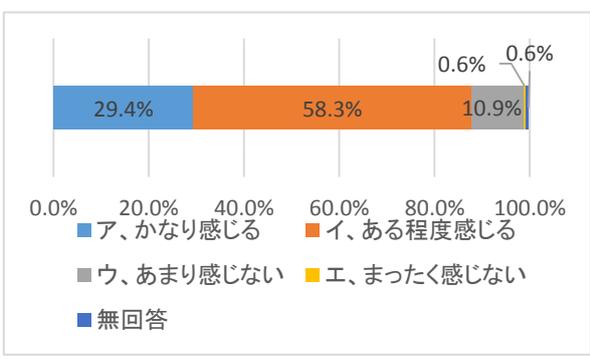
## Q8: どのような業務に多忙感を感じますか(3つお選びください)

教員の業務の根幹は「授業準備・教材研究」である。しかし、この調査で言えることは、その本来の業務に十分に時間が当てられていない中で、「事務処理」、「調査アンケート」、「児童・生徒指導」の困難さなどが多忙感を増やしている原因となっていることがわかる。



## Q9: 日々の仕事にやりがいを感じますか

Q7と相反する面もあるが、職員は多忙感、長時間の勤務にも関わらず、日々の仕事に8割以上の職員がやりがいを感じている。こうした職員に本市の学校教育は支えられている。そうした職員への支援体制を市教委としても今まで以上に考えていきたい。

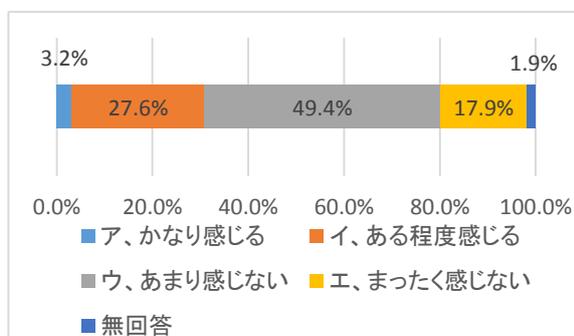


# 市立小中学校教員の仕事に関する「やりがい」や「多忙感」等に関する調査

- アンケート実施時期 平成29年7月
- 対象者・人数 教員等156人

## Q11:業務の改善は進んでいると感じますか

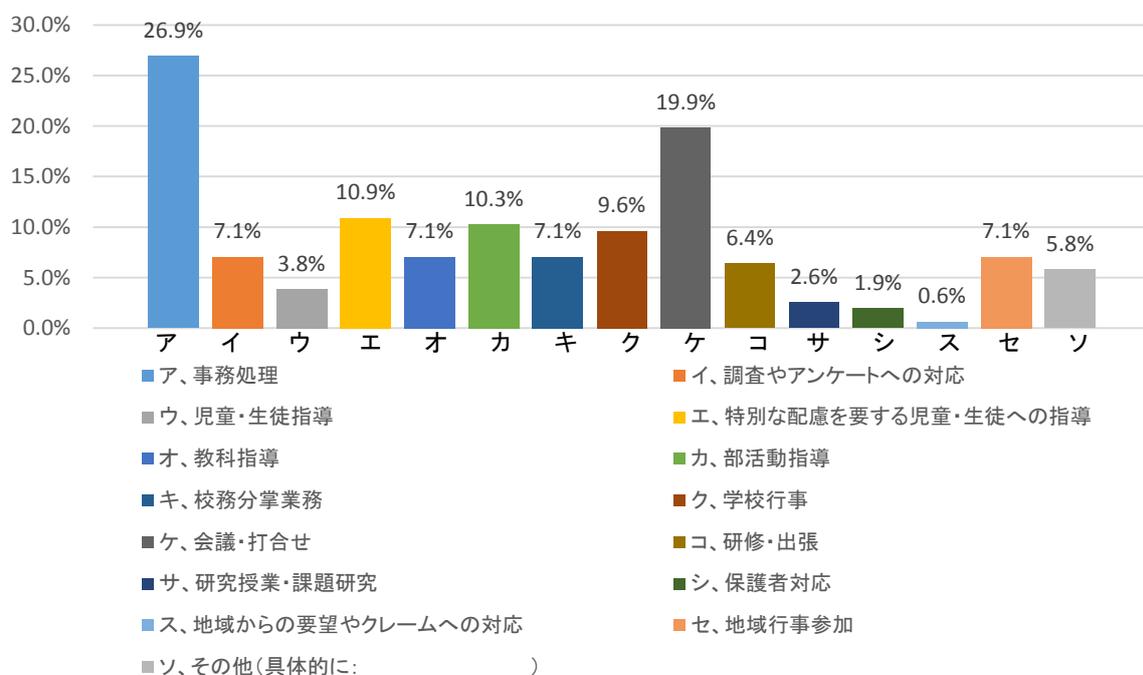
業務の改善について、市教委として本格的に取り組んだのは昨年度からである。特に校務支援システムにより、学級事務の軽減策は大きな成果をあげている。改善を感じていると回答した職員は、その方策を身近に感じたと思う。市教委として、また学校単位でも今後も実感できる軽減策を講じていきたい。



## Q12:具体的に改善が進んでいると感じるものを選んでください(3つ以内)

「事務処理」についてはQ9で述べた校務支援システムに起因していると思われる。2割を超える職員が回答した。

「会議・打合せ」については各学校での積極的な取り組みが功を奏して、結果として表れてきた。限度はあるが、さらなる効率化の視点で進めてもらいたい。

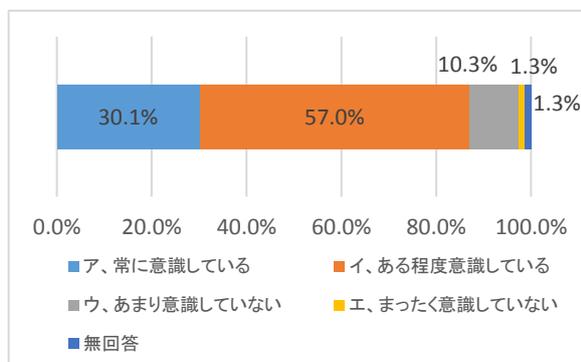


# 市立小中学校教員の仕事に関する「やりがい」や「多忙感」等に関する調査

- アンケート実施時期 平成29年7月
- 対象者・人数 教員等156人

## Q13: 自分が仕事をするうえで、業務時間短縮のため仕事のやり方を工夫するなど意識していますか

8割以上の職員が意識して業務時間短縮のために努力していることはうれしい結果である。今後は、勤務時間について自己管理方式を実施する予定である。時間という感覚を自らが意識することにより、さらに時間短縮の効果が現れることを期待したい。



## Q14 具体的にどのような業務で改善が必要だと思いますか(優先度の高い3つを選択)

「事務処理」に6割以上の職員が回答をしているが、さらにその具体的な事務処理項目の補足調査を行っていききたい。「調査・アンケート」などについては市教委レベルで通知文などにより精査しているが、まだまだその効果は十分に反映されていない。さらに一歩踏み込んだ方策を考えていきたい。

